

富良野演劇工場運営委員会（令和2年度第1回）顛末

日 時 令和2年8月25日（火） 14:00～14:50

場 所 文化会館 第一会議室

出席者 委員：4名、演劇工房：2名、事務局：3名

■辞令交付

■委員長選出 ～ 天日委員長、原田副委員長選出

■天日委員長挨拶

■山下部長挨拶

■演劇工場伊東理事長挨拶

■富良野演劇工場運営委員会の設置目的

■自己紹介

■ 報告事項 ～進行は天日委員長

(1) 令和元年度富良野演劇工場指定管理について

事務局 : 指定管理については H31 年度から令和5年度までの管理である。

天日委員長 : 修繕に関して演劇工場から気になっていることはないか

太田事務局長 : 舞台の吊物機構とボイラーが演劇工場建設後 20 年を経過しており、更新時期に来ている。

事務局 : 状況は把握している。各種補助金を活用し改修できないか検討している。

天日委員長 : 大きな修繕は計画的に行ってほしい。

原田委員 : 新ホールの建設が予定されていることから、演劇工場と新ホールのそれぞれの役割について検討が必要。

事務局 : 演劇工場は音の反射を抑えめに設計していることから演劇に特化した施設という位置づけであり、新ホールは逆に音の反射を考慮した音楽に適したホールという位置づけになっている。

(2) 令和元年度富良野演劇工場（指定管理分）収支決算について

(3) 令和元年度ふらの演劇工房事業について（演劇工場開催分）

太田事務局長 : 舞台塾ふらのについては、道からの補助金が無くなり、南富良野町も参加を見合わせたことから、沿線 4 市町村での実施となり、金銭的な面が厳しくなったため上富良野と富良野で公演、中富良野と占冠でコミュニケーションワークショップを行うという内容とした。

(4) 富良野演劇工場 年度別利用状況

太田事務局長 : 富良野塾のロングラン公演が無くなったことで、平成 21 年度あたりと比較すると利用者が半数近くに減っている。

(5) 富良野演劇工場 団体別利用 延べ日数

太田事務局長 : ここ数年札幌方面の中学校の利用が増えている。演劇工場のプログ

ラムでコミュニケーションワークショップを提供しているが、宿泊研修でこのプログラムを利用するケースが増えていることが要因。

■富良野演劇工場との意見交換

天日委員長：富良野高校演劇同好会の活躍について、演劇工場としてどう捉えているのか？

太田事務局長：全国高等学校総合文化祭がオンライン開催になったのは残念だった。同好会を発足させて1年で全道チャンピオンになったというのは奇跡である。表現学習の単元で役者や自分が指導することはあるが、直接演劇同好会を指導することはない。清野先生の指導力である。同好会メンバーは小学生の頃からふらの演劇祭に参加した経験を持ち、高校生になっても演劇をしたいという思いから同好会発足に至った。これまで、取り組んできたことが実を結んできたと感じている。

原田委員：演劇工場の優れている点は、取り組みが周りに波及していること。富良野高校の演劇同好会の活躍もその一つであると思う。

森田委員：本校も演劇指導を行ってもらっている。子どもたちは指導者によって大きく変わることがあるので、今後も指導をお願いしたい。

■その他

太田事務局長：今年度のふらの演劇祭は新型コロナの影響で例年通りの形では開催できなくなった。参加を希望する小規模校と高校2校、市民劇で12月中旬に開催する予定